

第 93 回機器・配管系検討会 議事録

1. 日 時 2026 年 1 月 30 日（金）13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所 一般社団法人 会議室（ビジョンセンター新橋 1601）（Web 会議併用）
3. 出席者（順不同，敬称略）
 - 出席委員：中村主査(東京都市大学)，古屋副主査(東京電機大学)，藤田(東京電機大学)，野元幹事(日本原燃)，中野(日立 GE ヘルパニュークリアエナジー)，上屋(日本原子力発電)，平塚(東北電力)，飯泉(東京電力 HD)，舘(北陸電力)，森田(四国電力)，森(九州電力)，大口(電源開発)，川幡(東芝エネルギーシステムズ)，齋藤(電力中央研究所)，宮崎(日本原子力研究開発機構)，黒川(関西電力)，嶋津(電力中央研究所)，石丸(中国電力)，大田(関西電力) (計 19 名)
 - 代理出席者：中野(三菱重工業，呉委員代理)，橘(富士電機，工藤委員代理)，小出(原子燃料工業，小関委員代理) (計 3 名)
 - 常時参加者：行徳(日立 GE ヘルパニュークリアエナジー)，酒井(中部電力) (計 2 名)
 - オブザーバ：日比野(原子力規制庁) (計 1 名)
 - 説明者：洪鋏(IHI)，星子(九州電力) (計 2 名)
 - 欠席委員：今村(北海道電力)，久保田(中部電力)，田村(ワイロテックソリューション) (計 3 名)
 - 事務局：川口，美濃(日本電気協会) (計 2 名)

4. 配付資料

- 資料 93-1 第 92 回機器・配管系検討会 議事録（案）
- 資料 93-2 機器・配管系検討会委員名簿
- 資料 93-3-1 2026 年度各分野の規格策定活動(案)
- 資料 93-3-2 2026 年度活動計画(案)
- 資料 93-4 JEAC4601 技術評価実施状況について
- 資料 93-5 SA-JEAG 改定案に関する原子力規格委員会書面投票の結果について
- 資料 93-6-1 2025 年 8 月 SDSIC
- 資料 93-6-2 2025 年 11 月 ASME-JSME JT
- 資料 93-6-3 2026 年 2 月 SDSIC

5. 議事

事務局から，本検討会にて私的独占の禁止並びに公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後議事が進められた。

(1) 資料の確認，代理出席者・オブザーバの承認

事務局から配付資料の確認の後，代理出席者 3 名の紹介があり，分科会規約第 13 条（検討会）第 7 項に基づき主査の承認を得た。確認時点で出席者は代理出席者を含めて 22 名で，検討会決議条件である分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づく，委員総数 25 名に対し決

議に必要な「委員総数の3分の2以上の出席(17名以上)」を満たしていることを確認した。その後オブザーバ1名の紹介があり、分科会規約第13条(検討会)第11項に基づき、主査の承認を得た。

(2) 主査の選任

事務局より、主査選任について説明し、野元幹事より、中村主査に引き続き主査をお願いしたいとの推薦があった。分科会規約第13条(検討会)第15項に基づき、挙手及びWebの挙手機能により決議の結果、5分の4以上の賛成で承認された。主査選任の挨拶の後、分科会規約第13条(検討会)第2項に基づき、主査より副主査に古屋委員、幹事に野元委員の指名を行った。

(3) 前回議事録(案)の確認【議題1】

事務局より、資料No.93-1に基づき、前回議事録(案)の紹介があり、正式議事録にすることについて、分科会規約第13条(検討会)第15項に基づき、挙手及びWebの挙手機能にて決議の結果、出席委員の5分の4以上の賛成で承認された。

(4) 検討会委員の新委員候補の紹介について【議題2】

事務局より、資料No.93-2に基づき、下記検討会委員の変更について紹介があり、新委員候補については、分科会規約第13条(検討会)第4項に基づき、次回耐震設計分科会で承認の予定であるとの説明があった。その後、新委員候補の挨拶があった。

・退任予定 波木井 委員(東京電力HD) ・新委員候補 飯泉 氏(同左)

(5) 2026年度活動計画案について(審議)【議題3】

大田委員より、資料No.93-3-シリーズに基づき、2025年度活動実績見込み及び2026年度活動計画について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・次年度活動計画について、SA-JEAGとJEACの統合の進め方が複雑であり、考え方の整理や課題整理が必要である。また、JEAC4601技術評価の結果を次の規格改定にどう反映するか、JSMEの弾塑性応答解析に基づく代替規定の取り込みもあるため、今後の進め方の議論が必要である。
 - 現状は技術評価に注力することになるが、電気協会としてはSA-JEAGの取り込みが先であると考え、どのような優先順位とするかは今後議論して進めたい。
- ・資料93-3-2のうち、JEAC4601-2021の技術評価は次年度も継続して行うことから、2026年度活動計画の技術評価の文章に「継続して」という一文を加えてはどうか。
 - 冒頭に入れることとし、「継続して、原子力規制委員会の技術評価に対して、資料準備等の適切な対応をとる」とする。

- ・ 資料 93-3-2 のうち、SA-JEAG の活動実績の原子力規格委員会書面投票については、既に可決していることから、そのような記載としてはどうか。
→ 同じ枠の 7 月 30 日の耐震設計分科会書面投票の記載と同様に、可決されていることが分かる記載とする。
 - ・ 資料 93-3-1 の P14 うち文献の年度の記載について、括弧書き「(2011)」の場合とコロン「: 2022」の場合があることから、統一してはどうか。
→ 学会標準に合わせてコロン「:」を用いた記載に統一する。
 - ・ 資料 93-3-1 の P18 の上から 2 行目の記載「～2025 年度は改訂案を上程～」の「改訂」は誤りではないか。
→ 「改定」に見直す。
 - ・ 資料 93-3-2 の P4 の原子力規格委員会の記載があるが、回次の記載がないことから、「第 94 回」を追記する。
- 頂いたご意見を反映したうえで、資料 No.93-3 シリーズ一式を総括検討会に上程するかについて、分科会規約第 13 条(検討会)第 15 項に基づき、挙手及び Web の挙手機能により決議の結果、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(6) JEAC4601-2021 技術評価の状況（報告）【議題 4】

事務局より、資料 No.93-4 に基づき、JEAC4601 技術評価実施状況として、前回機器・配管系検討会開催以降の状況と今後の見通しについて報告があった。

野元幹事より補足として、技術評価の過程で規格の記載に不整合や論理的な詰め切れていない部分があることが指摘されており、今後の機器・配管系検討会での審議を経て規格の改定を検討していくことになることが説明された。また私見として、電気協会としては 1970 年版からの連続性を持つ規制基準であるとともに、1984~1991 年版は規制基準として整備されたという成り立ちを強く意識していたのに対し、原子力規制庁側は現行の規制基準に対する仕様規定としての民間規格として捉えられており、立場の違いによって同じ規格に対する捉え方が大きく異なることを個人的な学びとして共有された。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 特になし。

(7) JEAG4601-2015[2016 追補版] (SA-JEAG) の審議状況について（報告）【議題 5】

事務局より、資料 No.93-5 に基づき、SA-JEAG が原子力規格委員会の書面投票により 1/23 付で可決となっていること、現状は投票時にいただいたご意見への対応中であること、ご意見対応が終われば公衆審査に進むことについて報告があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 特になし。

(8) ASME SDSIC 等について（紹介）【議題 6】

オブザーバの洪鋏様より、資料 No.93-6 シリーズに基づき、ASME と JSME で行っている連絡会での耐震がテーマの内容について、紹介があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 本日のご報告の位置づけを再確認させていただきたい。
 - ASME の耐震規格に関する活動は、JSME では継続的に報告してきたが、電気協会側への情報共有が不十分であったため、昨年よりオブザーバとして参加させていただいており、今回正式に紹介を行ったもの。
- ・ 弾塑性解析では、うまく規定しないと人によって結果が異なるが、ASME ではどのように規定されているか。
 - 具体的な解析手法については、ASME としてガイドライン的な要素は設けない方針であることから、ユーザー側の判断に委ねられている。
- ・ 解析手法を検討している ASME 側の作業会に JSME や電気協会がジョイントして検討していくことはいかがか。ASME と JSME ではジョイントタスクで会話する機会はあるが、耐震については個人ベースの活動となっていることから、会議体ベースでの連絡会を開催することは有用と考える。また、アメリカでは耐震技術を見直そうとしており、いい機会である。
 - 電気協会が直接 ASME と連携している実態は現状ないが、定期的な情報提供を受ける体制を整えることや、データ共有等を通じた協力関係の構築は有益と考える。
 - 今後の情報共有の頻度については、コードウィークのタイミング等に合わせて随時折を見ながら対応する。

(9) その他

- ・ 次回機器・配管系検討会開催は、事務局で調整して別途連絡する。

以 上